

令和４年度 福島区区政会議(第二回全体会)でいただいたご意見と対応方針一覧

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
1	宮本委員 (地域活動協 議会(鷺洲))	経営課題「次世代を元気に育むまちづくり」について、子どもの不登校が多いと聞く。学校に相談しても具体的な対策をしてくれないようなので、子どもがもっと楽しく学校生活を送れるように手厚い支援をしてほしい。	全国的に不登校が増加傾向にあり、大きな課題と認識している。 市の施策としては、不登校などの相談に応じるスクールカウンセラーの増員や、在籍する学校に通学することが困難な児童・生徒を受け入れる特例校の設置、ICTを活用した学習の機会の確保などに取り組んでいる。 簡単に解決出来る課題ではないが、子育て支援室でも、子どもの状況にあわせて親子を支援していきたいと考えているので、「こどもサポートネット」や家庭児童相談なども活用していただきたい。	保健福祉課(子育て教育)	スクールカウンセラーについて、令和５年４月から福島区では１名増員されており、中学校は週１回、小学校は１～２週に１回の配置となっています。スクールソーシャルワーカーについても、令和５年４月から１名増員され、「こどもサポートネット」の体制が強化されました。今まで以上に学校等と連携してご家庭とのつながりを深めてまいります。
2	岡田委員 (地域活動協 議会(福島))	子どもの見守り活動に参加している。最近寒くなってきたが、子どもが防寒用のタイツを着用するには学校に理由を説明して認められる必要があると聞いた。本当にそんな学校運営が行われているのか？	昔は校則が厳しかったが、最近は全国的に見直しが検討されている。理屈に合わない厳しい校則も不登校の原因の一つとなるので、そのような校則が見直されて子ども達が楽しく学校生活を送れるように学校と連携していきたい。	保健福祉課(子育て教育)	本市教育委員会によると、校則が時代の変化や社会通念に照らして必要かつ合理的なものとなっているか等の観点から、校則について確認したり議論したりする機会を設けるなど、適宜点検、見直しを図るよう各校へ通知をしているとのことでした。児童生徒の服装を含む学校のきまりは、各校で学校の状況や生活指導上の観点等を考慮してルールが定められておりますが、児童生徒の体調や安全管理に十分に配慮しながら、柔軟に対応されているようです。

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
3	岡田委員 (地域活動協 議会(福島))	自主防災について、地域で防災訓練を実施したが、私の地域はマンションが多く、マンションの住人は防災訓練や地域の行事などに参加していないようだ。 マンションの住人に防災訓練をしているのかと聞いても、していない様子である。万一の際に備えて区役所から指導できないのか？	大規模なマンションについては防災訓練をするよう消防局から通知がいつているはずだが、実施できていないマンションも多いと思う。 区役所からは防災に関する「出前講座」などを勧めているが、なかなか実施には結びついていない状況である。	市民協 働課(市 民協働)	今後も、地域の皆様やまちづくりセンターとも連携しながら、出前講座をはじめとした取り組みについて、マンション防災に興味を持ってもらえるような工夫を考えてまいります。
4	久保委員 (公募)	私は7月に「ふくしま元気バル」という食に関するイベントを開催したが、アンケートで「福島区に引っ越してきたが、イベントのおかげで地元のよいお店を知ることが出来た」といった意見をいただいた。 福島区役所の経営課題にも「区の魅力発信」が掲げられているが、コロナも少しずつ落ち着いてきている中、通常の生活に戻ることを想定して何か考えていることはあるか？地域行事の情報発信などにも協力してもらえればよいと思うが。	福島区には「グルメ」の他にも「歴史ある景観と新しい景観の併存」「交通の便がよい」「安全・安心なまち」など多くの魅力があり、今後とも民間と連携して魅力発信に努めたいと考えている。 今年度は比較的若年層への発信力が強いと思われる「Instagram」というSNSを活用した広報を始めたので、またご覧いただければと思う。 その他、「こんな魅力を発信したら」というご意見があれば教えていただきたい。	企画総 務課(企 画推進)	令和5年5月から広報誌をA4版に変更して、「読みやすかつ読みたいと思うような広報誌」を基本理念に編集を行っています。 5月号では「#ときめく福島を探しに行こう」と題して、福島区内の魅力あるスポットを紹介して自転車で区内を巡っていただくように広報を行いました。 今後、いろいろな行事や企画が予定されている中、広報誌の充実を図り、「Instagram」や「ツイッター」などのSNSも活用して、できる限り多くの方に福島区の魅力を情報発信できるように進めてまいります。

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見内容	会議での回答内容	回答課	対応方針
5	塩津委員 (地域活動協議会(海老江東))	経営課題「人と人がつながるまちづくり」で、地域への「ICTの技術的支援」について書かれている。 地域イベントの回覧書類などでは個人情報適切に扱われていないと感じることもあり、こういった分野でICTを活用したスマートな事務ができればよいと考えているので、しっかりサポートしてほしい。	地域活動の広報でホームページなどを活用する際にまちづくりセンターが技術的な支援を行っているが、まだ順調に進んでいない地域もあると聞いているので、支援に努めたい。	市民協働課(地域活動支援)	ホームページやフェイスブックなどICT活用した情報発信環境が整っていない地域への支援は順調に進めることができました。 ICT活用による情報発信は、これまで地域活動への関りが薄い層への担い手の確保や事業への参加拡充等に向けたPRになるため、今後は情報発信の頻度が薄い地域へ積極的に支援に取り組んでまいります。
その他いただいたご意見					
6	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	コロナが落ち着いてきて飲食店が賑わっているのが悪いことだとは思わないが、多くの方が来ることで騒がしくなったり、通りを汚されたりして地域では困っている。			
7	岡田委員 (地域活動協議会(福島))	マンションの住人はマンション内でも近所付き合いが希薄だと聞くので、このままマンションが増えていくと地域コミュニティが崩壊するのではないかと心配である。			
8	山口委員 (公募)	不登校は「学校に行きたくない」「学校に行きたいが行けない」など子どもによって状況がいろいろ違っており、原因によって解決へのアプローチも変わってくると考える。 また、校則については違反する子をただ注意するだけではなく、「なぜダメなのか」ということの理解も促しながらルールを守るように伝えることが大切だと思う。			
9	濱委員 (地域活動協議会(野田))	不登校について、私の地域でも多いと聞いた。大人になればしっかりする、という話もあるが、「だから問題ない」とはならないと思う。保護者が寂しそうに見えるのが気がかりである。			
10	小笠委員 (地域活動協議会(海老江西))	私の地域では今年から女性会が発起人となって、子どもの見守り活動を始めた。協力者が少なく大変である。 今の子どもは声をかけても無視するイメージであるが、挨拶をすれば小さな声を返してくれる。一歩踏み出すことで相手も近づいてくれるように感じた。 不登校についても他人事ではなく、わがこととして一緒に悩む姿勢は大切だと思う。			
11	松井委員 (地域活動協議会(新家))	地域で「高齢者食事サービス」を実施している。コロナが落ち着いてきたので、「配食」から「会場で会食」形式に戻したところ、「配食なら食べられたが、コミュニティセンター内の段差が上がれないので諦める」というご意見があった。あいあいセンターからもその方に声がけをしてもらったが、結局来られなかった。福祉的な支援から置き去りになってしまって残念に思った。			